

## 交流手段の多様性

城星学園小学校 5年

矢部 碧子

そーっと、そーっと、ガラス戸を開けると、笑顔で迎えてくれたお店の人。

案内された席に座ると、手のひらサイズのカードを渡された。かわいいイラストとともに、この店のマナーが書かれています。

このお店を知ったきっかけは新聞で、『会話禁止カフェ』という記事を読んで行ってみたいと思ったからです。そこはほとんどの店員さんが聴覚障がい者で注文も手話か筆談か指さしのどれかです。私はグリーンティとわらびもち、母は抹茶を、メニューを指さして注文しました。

ふと横を見ると、店員さんとのやり取りが出来るノートとペンがあり、中をみると遠くの県から来た人や、たまたま入った人、また英語や中国語などの、様々な外国語もあり交流の広さにおどろきました。

わらびもちが来ました。私はちょっと緊張しながら手話で

「ありがとう。」

をすると、店員さんが笑顔で答えてくれました。私の手話が伝わってほっとしました。

わらびもちがおいしかったので、ノートに書いて見てもらいにいくと、

「書いてくれてありがとう。実はわらびもちも他のメニューも全て手作りなんだよ。」

と教えてくれて、だからこんなにおいしいのかと思いました。

「手話習っているの？」

「学校で習った事があるけど、少ししか覚えていません。」

と書くと、

「こんにちは。」

を教えてくれました。そこからたくさん会話をしました。そのやりとりが楽しくて、その場がにこにこ笑顔であふれたような気がしました。

席に戻ると母が茶をたてていました。静かな所にシャカシャカと音がひびいて心地よかったです。私

のグリーンティをズズッと飲みほす音もひびいてちょっぴりはずかしかったです。

そしてお会計を済ませて出ていく時お互いに、

「ありがとう。」

と手話でしてお店を出ました。最初は『会話禁止カフェ』と聞くといったいどんなきびしいお店なのかと思いましたが、BGMのない、家のリビングともすこしちがう、静かでいやしを味わえる時間をすごせる場所でした。手話ができなくても筆談ならだれでも会話をたくさんできるし、相手を書いている時どんな返事かワクワクするし、またその会話が残るのも新しく感じました。また手話もお互いの表情がとても大切でにこにこされたら私にもにこにこが伝わって笑顔になったり、人と人との交流ってなんでもありだなと思いました。

図書館でもこういう交流があればいいなと思いました。私は本が好きでよく行くので、好きな本の話とかを手話や筆談で会話したいです。